

今宿五郎江遺跡第3次調査出土剥片石器について

森 貴教(九州大学大学院)

はじめに

今宿五郎江遺跡第3次調査では溝SD-01・02などから玄武岩製の剥片石器(以下、本資料)が多数出土した。本稿はこの玄武岩製剥片石器の概要を提示し、弥生時代中期後半から後期初頭における今山産玄武岩を用いた剥片石器利用について考察するものである。

1. 資料の概要

今宿五郎江遺跡は、弥生時代の石斧製作址として著名な福岡市西区今山遺跡の南東約2kmに位置する弥生時代中期後半から後期を中心とする環濠集落である(森本2010)。本資料はSD01・02などから出土したものが多く、所属時期は出土した土器より弥生時代中期後半から後期初頭と考えられる。本資料27点のうち特徴を良好に示す剥片石器3点(資料①~③)を抽出・図化し、その他のものは法量などを計測し観察表を作成した(図1・表1)。以下、個別にみていく。

資料①は玄武岩製のスクレイパー(削器)である。背面には複数の先行剥離痕が認められる。平面形は楕円形を呈し、末端部には微細剥離痕が認められ摩耗している。資料②は玄武岩製のスクレイパーである。表面、裏面は自然面(礫面)を残す。粗い剥離により末端部に刃部が形成されている。剥離痕は不連続である。資料③は玄武岩製のスクレイパーである。表面、裏面は自然面を残す。平面形は扇形を呈し、粗い剥離により刃部が形成されている。本資料のなかでは最大幅18.1cmと大型である。

2. 今山産玄武岩の利用と剥片石器

玄武岩の原産地である今山は、縄文時代から打製石斧の産地として使用され(吉留2005)、早良区重留遺跡第1次調査では縄文時代後期後半から晩期前半に属する玄武岩製打製石斧、同未完成品・剥片が出土している(米倉2007)。しかし、その利用が本格化するのは弥生時代である。弥生時代開始期から自家消費的な両刃石斧の製作が行われていたと考えられるが、前期末以降に最も盛行する。本資料の所属時期である弥生時代中期後半(須玖Ⅱ式)は今山遺跡における両刃石斧の製作が終了した時期である(米倉編2005)。当該期には今山遺跡での石斧製作の終焉と代替するように古今津湾沿岸の湯納遺跡、飯氏遺跡、今宿五郎江遺跡において小規模な石斧製作が開始される(吉留ibid.)。このような今山産玄武岩利用の時期的変遷を念頭に置いていたため筆者は当初、本資料は弥生時代中期後半以降の比較的小規模な石斧製作に関連する可能性が高いとみていた。

ところが観察の結果、石斧製作とは直接関係しないスクレイパー・RF(二次加工のある剥片)・UF(使用痕を有する剥片)が大半を占めていることが明らかになった。石斧製作(剥離工程)で生じる剥片にはいくつかの形態的な特徴がある。最大長4cm以下、最大幅6cm以下のやや横長の剥片が多く、末端部には微細剥離痕が全く認められない。自然面は背面の一部にのみ残存している(米倉編ibid.)。他方、本資料は石斧製作で生じる剥片と比較して大型(最大幅11~13cm)であり、表裏ともに自然面が残存するものが多いこと、そして末端部に微細剥離痕が認められるなどの差異が認められた。このことから玄武岩の転礫を素材として便宜的に石器が製作されていたといえる。弥生時代中期後半は立岩系石庖丁の流通の最盛期であり糸島地域でも散見されるが、不安定な入手だったことが窺える。使用方法の詳細は不明だが、本資料は今山産玄武岩が石斧のみでなく収穫具などとしても利用された可能性を示し、原産地周辺の遺跡群における資源利用と生業様式を考察するうえで非常に重要である。

おわりに

本稿では今宿五郎江遺跡第3次調査出土の玄武岩製剥片石器をとおして、今山産玄武岩の利用について考察を加えた。本資料の報告が今後の調査・研究の一助になれば望外の幸せである。

謝辞 本稿の作成にあたり小林義彦、瀧本正志、谷 直子の諸氏に資料調査などでお世話になりました。末筆ではありますが、深く感謝申し上げます。なお本研究は、平成24年度日本学術振興会特別研究員奨励費(24・2191)の助成を受けたものである。

参考・引用文献(五十音順)

- 二宮忠司(編) 1991『今宿五郎江遺跡II』福岡市埋蔵文化財調査報告書第238集 福岡市教育委員会
 森本幹彦 2010「今宿五郎江遺跡の成立とその背景—弥生時代後半期の環濠集落とその対外交流の様相—」『福岡考古』第22号 福岡考古懇話会
 吉留秀敏 2005「今山産玄武岩の利用とその変遷」『石器原産地研究会第7回研究集会発表要旨』石器原産地研究会
 米倉秀紀(編) 2005『今山遺跡第8次調査』福岡市埋蔵文化財調査報告書第835集 福岡市教育委員会
 米倉秀紀 2007「9. 小結(縄文時代のまとめ)」『入部XII』福岡市埋蔵文化財調査報告書第925集 福岡市教育委員会

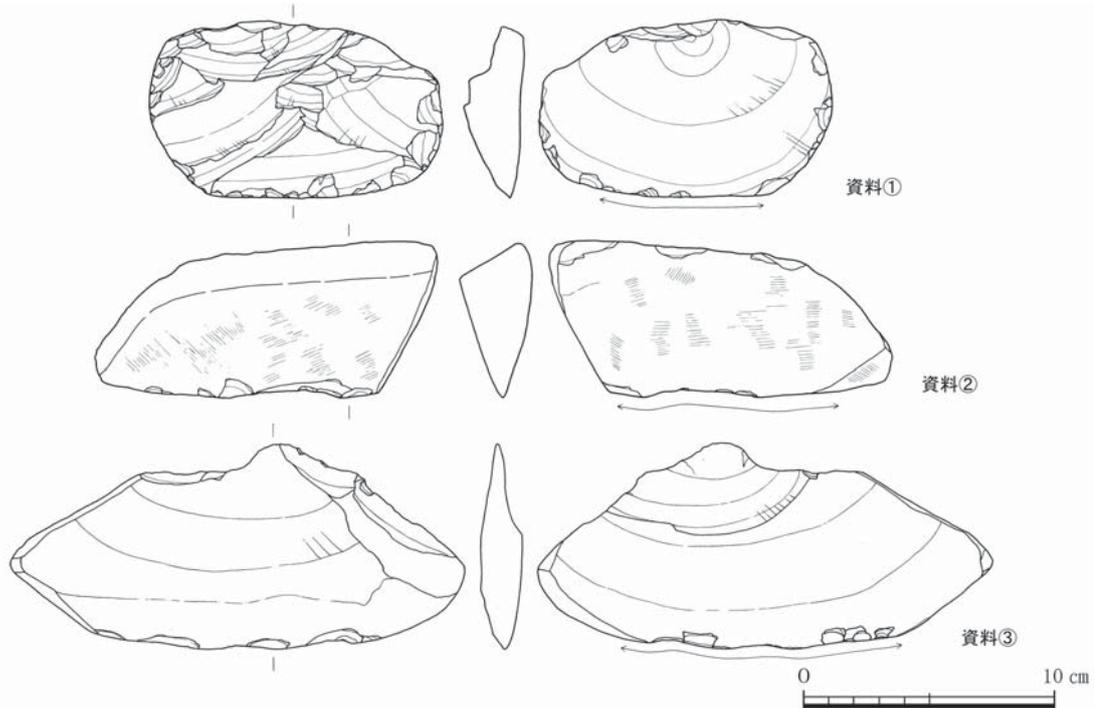


図1 剥片石器実測図 (S=1/3)

表1 剥片石器観察表

No.	出土位置	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
1	—	スクレイパー	玄武岩	7.2	11.6	2.4	240	微細剥離痕あり 資料①
2	—	スクレイパー	玄武岩	6.3	13.6	3.0	300	微細剥離痕あり 資料②
3	—	スクレイパー	玄武岩	8.3	18.1	1.9	336	微細剥離痕あり 資料③
4	SD-02	スクレイパー	玄武岩	8.5	12.4	1.7	264	微細剥離痕あり
5	SD-02	スクレイパー	玄武岩	9.2	9.8	2.1	241	微細剥離痕あり
6	SD-02	スクレイパー	玄武岩	8.3	11.3	2.0	255	微細剥離痕あり
7	SD-02	スクレイパー	玄武岩	6.5	14.6	1.7	265	微細剥離痕あり
8	SD-02	スクレイパー	玄武岩	8.0	11.9	2.1	347	微細剥離痕あり
9	—	スクレイパー	玄武岩	10.9	12.4	2.8	524	微細剥離痕あり
10	—	スクレイパー	玄武岩	6.4	17.0	2.0	270	微細剥離痕あり
11	—	スクレイパー	玄武岩	4.8	8.9	1.2	62	微細剥離痕あり
12	—	スクレイパー	玄武岩	8.1	12.4	2.2	250	微細剥離痕あり
13	SD-02	スクレイパー?	玄武岩	5.9	8.2	1.8	153	
14	SD-02	スクレイパー?	玄武岩	8.9	11.9	3.0	387	
15	SD-02	UF	玄武岩	9.6	14.5	2.5	449	石器製作には関連していない 収獲具?
16	SD-02	UF	玄武岩	6.8	11.4	1.7	144	石器製作には関連していない 収獲具?
17	SD-02	UF	玄武岩	6.7	8.8	2.6	134	石器製作には関連していない 収獲具?
18	SD-02	UF	玄武岩	8.4	13.0	2.9	428	石器製作には関連していない 収獲具?
19	SD-02	UF	玄武岩	9.2	11.3	2.3	315	石器製作には関連していない 収獲具?
20	SD-02	UF	玄武岩	7.5	10.4	3.0	313	石器製作には関連していない 収獲具?
21	SD-02	UF	玄武岩	6.0	10.3	2.1	155	石器製作には関連していない 収獲具?
22	SD-01	RF	玄武岩	7.3	10.9	2.3	261	用途不明
23	SD-02	RF	玄武岩	8.6	17.2	3.4	500<	
24	—	RF	玄武岩	9.2	9.8	3.8	336	用途不明
25	—	RF	玄武岩	7.9	11.7	2.5	320	用途不明
26	—	RF	玄武岩	4.4	11.0	1.6	136	用途不明
27	—	剥片	玄武岩	7.2	11.3	1.2	101	石斧製作に関連する可能性あり